

授業レポート「『主体的・対話的で深い学び』の授業実践を振り返って

宮崎県立〇〇高等学校

理科(物理)〇〇〇〇

〇公開授業を終えて、「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を行う上で留意したこと、また考えたことや感じたこと。

今回の資質・能力育成研究（授業研究部門）の話を受け、漠然とではあるが、「グループを作り、話し合うだけの雰囲気（目的のないアクティブラーニング形式）」はやめよう、生徒が振り返ったときに、「何かグループを作って話し合ったけど、結局何を学んだの」とならないようにしようと考えた。理科という教科の特徴でもある、『実験・観察』を行い、生徒にとって『深い学び』となるような授業展開を目指した。

授業内容を考える上で、学習指導要領にある『資質・能力を育むために重視すべき学習過程のイメージ』を参考にし、図に何度も目を通すうえで『今から行う授業は、この学習過程を行っているのだな』とイメージするようにした。

公開授業においては、水素原子を基にした原子の構造及びスペクトルと、電子のエネルギー準位を理解する内容について行った。この授業計画は4時間を計画し、最終時間を公開授業とした。ラザフォードの原子模型の欠点から、ボーアの理論の導入、そして、そこから導かれたエネルギー準位の式が、バルマーらに導かれた線スペクトルと一致する、最後に線スペクトルを実際に観察し、理論と一致する現象が起きていることを確認し理解を深める、という内容の授業を展開した。

「主体的・対話的で深い学び」には、「先哲との会話」も一つと手段として挙げられる。先人達が、自然現象から法則性を導く上で、どのような思考過程を踏んだか、を考えることが、「先人との会話」に当たると考え、このような授業展開を行った。

理科という教科では、自然現象に対して、先人の思考の手法や方向性を考え、それに沿った授業を展開することで「理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行い、物事を捉える視点や考え方」が育成されると、今回のパイロット教員の機会をいただき強く感じる事ができた。

今回の資質・能力育成研究会（授業研究部門）の経験から感じたことは、インプットばかりの授業展開ではなく、インプットしたものを、見通しを立て選択し、アウトプットさせる力を重視し、今後養って行かなければならないと感じた。その手立てをするのが教員であり、決して教員が先頭に立ち授業をするのではなく、一緒に考える姿勢を持たなければならないということを学ばせていただいた。

未筆になるが、日々の多忙な校務のなか、公開授業に足を運び、意見や助言をしてくれた先生方、また宮崎大学の学生さん、このような機会をくださった関係の先生方に感謝を述べたいと考える。この経験を忘れずに、今後の教職に活かしていきたいと考える。